

平成 28 年度観光・創造都市・国際戦略特別委員会中間報告書 構成 (案)

1 付議事件

M I C E の推進、国際コンテナ戦略港湾の推進、国際戦略総合特区の推進、文化・芸術等の大規模集客イベントの開催に関すること。

2 今年度の調査・研究テーマ

選ばれる国際港都横浜の魅力づくりの推進について

3 テーマ選定の理由

横浜市は、中期 4 か年計画の戦略 3 「『魅力と活力あふれる都市の再生』戦略」に基づいて、市民・企業・行政が一体となり、世界中の人々や企業を引きつけ、都市の活力とにぎわいを創出するまちづくりを推進している。

これまで本特別委員会では、観光 M I C E の推進や文化・芸術等の創造都市戦略の検証などをテーマに委員会活動を行ってきたが、今までの議論は継続しつつ、本委員会の付議事件のうちまだテーマとして取り上げられていない国際コンテナ戦略港湾の推進や国際戦略総合特区の推進についても議論し、国際港都横浜が選ばれるためにどうあるべきかを複合的な観点から検証していく必要がある。

よって本特別委員会では、このテーマに基づき、本市の取り組みの検証、他都市の取り組みの調査及び有識者からの意見聴取などを実施し、多面的に調査、研究を行うこととした。

4 委員会活動の経緯等

(1) 平成 28 年 6 月 8 日 委員会開催 (第 1 回)

ア 議題

平成 28 年度の委員会運営方法について

今年度の委員会運営方法について意見交換を行った後、調査・研究テーマについては「選ばれる国際港都横浜の魅力づくりの推進について」と決定した。

イ 委員意見概要 (別紙 1 参照)

(2) 平成 28 年 8 月 31 日 委員会開催 (第 2 回)

ア 議題

調査・研究テーマ「選ばれる国際港都横浜の魅力づくりの推進」について

イ 当局説明概要

調査・研究テーマに関係して、特に国内外からの誘客促進について施策を行っている局から次の施策について説明を聴取し、その後意見交換を行った。

【所管局】文化観光局、港湾局

(ア) 市内主要施設の利用者状況について (当局説明の概要を記載)

(イ) シティプロモーションについて (当局説明の概要を記載)

(ウ) 大規模集客イベントの支援について (当局説明の概要を記載)

(エ) 客船の寄港促進について (当局説明の概要を記載)

ウ 委員意見概要 (別紙1参照)

(3) 平成28年9月23日 委員会開催 (第3回)

ア 議題

調査・研究テーマ「選ばれる国際港都横浜の魅力づくりの推進」について

イ 当局説明概要

調査・研究テーマに関係して、特に都心臨海部における回遊性向上の推進について施策を行っている局から次の施策について説明を聴取し、その後意見交換を行った。

【所管局】政策局、都市整備局、港湾局

(ア) 本市を取り巻く交通ネットワークの変化について

(当局説明の概要を記載)

(イ) 横浜市都心臨海部再生マスタープランにおける、主要な交通インフラの取り組みについて (当局説明の概要を記載)

(ウ) 都心臨海部における新たな交通システムの導入について

(当局説明の概要を記載)

(エ) 水上交通等の取り組み推進について (当局説明の概要を記載)

ウ 委員意見概要 (別紙1参照)

(4) 平成28年9月23日 市外視察実施

市外視察の概要を記載

(5) 平成28年10月17日 委員会開催 (第4回)

ア 議題

参考人の招致について

イ 委員会開催概要

本委員会の付議事件に関連して、次回委員会において参考人からの意見聴取を行うことを決定した。

参考人：首都大学東京特任教授・東京工業大学特任教授 本保芳明氏

案件名：明日の日本を支える観光ビジョンについて

(6) 平成28年11月4日 委員会開催 (第5回)

ア 議題

明日の日本を支える観光ビジョンについて

イ 参考人講演概要 (参考人講演の概要を記載)

ウ 委員意見概要 (別紙1参照)

(7) 平成28年12月5日 委員会開催 (第6回)

ア 議題

調査・研究テーマ「選ばれる国際港都横浜の魅力づくりの推進」について

イ 当局説明概要

調査・研究テーマに関係して、特に国際戦略の推進について施策を行って

いる局から次の施策について説明を聴取し、その後意見交換を行った。

【所管局】港湾局、経済局

(ア) 国際コンテナ戦略港湾の推進について (当局説明の概要を記載)

(イ) 京浜臨海部ライフイノベーション国際戦略総合特区の取組状況について
(当局説明の概要を記載)

ウ 委員意見概要 (別紙 1 参照)

(8) 平成 29 年 2 月 9 日 委員会開催 (第 7 回)

ア 議題

調査・研究テーマ「選ばれる国際港都横浜の魅力づくりの推進」について

イ 委員意見概要 (当日の概要を記載)

(9) 次回委員会 (第 8 回)

当日の概要を記載

5 選ばれる国際港都横浜の魅力づくりの推進についてのまとめ

委員意見等から導き出される本委員会のまとめを記載

<まとめの方向性>

- ・本市を取り巻く状況
- ・横浜市の動向
- ・横浜市の取り組みの検証後の現状と課題
- ・横浜市としての今後の展望

＜委員意見概要＞

第1回委員会（平成28年6月8日開催）

【議題】平成28年度の委員会運営方法について

【主な意見】

- ・観光船を誘致し、来たとしても横浜市に人が流れない。横浜には魅力がないのか、あるいは魅力を創造しようとししないのか。横浜市に観光してもらうためにはどうしたらよいかをテーマに議論し、議会から働きかけてやっていかないと、観光振興にならないのではないかと。
- ・全ての内容を一緒に議論するのは難しいため、物流、客船、イベントのように3つぐらいに分けて議論すべきではないか。例えばイベントでいうと、そういうものをやるときの経緯がどうであって、どういうことがネックになっているかというのをしっかり検証した上で、どういうものだったら誘致し、実施できるのかということを含めるとよいのではないかと。
- ・横浜市には18行政区あり、それぞれ素晴らしい文化がある。それぞれの区に有形無形の文化あるいは文化財があるので、そういうものを掘り出して行って、そこにどうやってお客さんに来てもらうか。またそれを観光や雇用に結び付けられる展開が望ましいと考えているため、そういったことも含めて議論を進めていければと考えている。
- ・横浜を素通りされてしまう現状が確かにあると思われるが、それは横浜に魅力がないからというわけではないと考えている。ただ、その魅力を発掘しなければならず、また発掘した魅力をどのように提示するのか。そういうシティプロモーションという部分も重要になるのではないかと。シティプロモーションのやり方はさまざまあるため、そのやり方を検証できれば、国内外問わず多くの方が横浜に足を運ぶきっかけになるだろうし、大規模集客イベントの誘致にも大きな役割を果たすのではないかと考えられるため、改めてシティプロモーションを横浜市はどのようにやっていくのかということも、この機会に検証できればよいのではないかと。

第2回委員会（平成28年8月31日開催）

【議題】調査・研究テーマ「選ばれる国際港都横浜の魅力づくりの推進」について

【主な意見】

- ・集客実人数及び消費額も過去最高を記録し、毎年ふえており、そういう方向にあることはよいのだが、一方でどこに泊まれるのかという課題への取り組みに着手しているのだろうか。海外からの誘客・誘致を促進することも大事であるが、市内の主要ホテルの稼働率は88%を超えており、今後何か手を打たなければいけないのではないかと。

- ・多文化に対応した受け入れということで、ハラール対策などのムスリムの方への対応を進めていかないといけないのではないか。ハラール対策などはかなり肩入れしてやっている自治体も多いため、横浜市においても研究してもらいたい。民間は横浜市がいろいろな情報を提供したり協力したりするのを望んでいると思われるので、他の自治体を見習いながら負けないように力を入れて取り組んでいただきたい。
- ・シティプロモーションに関して、横浜フィルムコミッション事業をもっと推進するべきではないか。横浜プロモーションアニメや横浜プロモーション動画の制作、ワタシの横浜とりっぷの制作・放映など、シティプロモーションにかなりの金額を要しているが、横浜フィルムコミッション事業は製作費等がかからない中で横浜市のプロモーションにつなげることができるため非常に魅力的である。これから東京2020オリンピック・パラリンピックを迎える中で、世界の方に横浜をもっと知ってもらおう。そのためにも定額制動画配信サービスも含めた映画やドラマの制作の際に、横浜を舞台にしてもらうためにもっと積極的にアピールしていくことも必要ではないか。
- ・客船の寄港促進の取り組みについて、臨時免税店を出店し持ち帰りやすいお土産を用意しているようだが、横浜土産をもっと取り扱った方がいいのではないか。
- ・パシフィコ横浜について、平成27年度では問い合わせ件数が約3900件あり、そのうち決定できているのは850件という状況で、予約を受けられなかった会議等は、他の会議室を案内しているとのことであるが、その内訳のデータを取り今後の誘致政策につなげていくべきではないか。現状その内訳データを持っていないということだが、今後みなとみらい21中央地区20街区MICE施設等の運営を踏まえると、その内訳データを取り、活用することで少しでも横浜市内の受け入れ拡大に生かしていくべきではないか。
- ・一時は中国人観光客による爆買いが流行っていたが、最近は中国経済の減速等でその傾向が薄れてきたこともあり、対象国も含めてもっと幅広く検討するべきではないか。近年は個人旅行が多くなりつつあるので、限られた広報費・誘客費用を有効に使うためにも、ニューツーリズムを主体として港湾や横浜の発展を考えるべきではないか。
- ・寄港数がふえることはよいことだろうが、寄港により立ち寄った人が実際にお金を使っているかどうかを検証する必要があるのではないか。横浜に寄港しても横浜市内を回るツアーが数%しかないのでは船のツアーオペレーターに働きかけて、他都市だけでなく横浜市内を回り、市内の消費につながるツアー形成を促すべきではないか。
- ・客船の寄港による経済効果について、かなり大きな部分を占めているのは給油や食料品であるが、その横浜市内の域内調達率を高くし、市内業者を育てることが寄港促進を初めとする観光政策をやる意味ではないか。
- ・何のために観光消費額をふやすのか、何のために来訪客をふやすのか。日帰り客を伸ばす戦略なのか、宿泊客を伸ばす戦略なのか。国内観光客をふやしたいのか、インバウンドをふやしたいのか。また、観光客とビジネスパーソンでは

誘客の戦略や広報の仕方が異なるだろうから、観光振興に関する目標や計画、目指すべき方向性をもう一度練り直す必要があるのではないか。そのためにも、MICEに來た人の行動調査を行うなど、細かいマーケティング分析を行うべきではないか。

- ・受け入れ上限に達している施設がある一方、PR方法等の創意工夫により利用者数をふやせる施設もあると思われるので、対策・検討を進めるべきではないか。
- ・観光客にとってストレスのない通信環境は大切だろうから、神奈川県下だと横浜から湘南エリア、箱根方面といった形で連動性を持たせるなど、自治体を越えた形でWi-Fi環境の整備が必要ではないか。
- ・誘客を考えるに当たって、食というのはターゲットにするべきものであろう。そのためシティプロモーションの中で十分にPRすべきではないか。
- ・クールジャパンとクルーズ船とコミットすることは、観光客・クルーズ船の誘致増につながっていくと思われるが、クルーズ船は船内でツアーが売られるようなので、ランドオペレーターに働きかけてツアーとして組んでもらうようにすべきではないか。
- ・若い人がリピーターになる可能性が高いと思われるため、海外の学生をターゲットにした調査をするべきではないか。
- ・各種取り組みや統計を取っていることはわかるが、全体の中でどの部分の話をしていて、どれだけのインパクトがあるのかわかりづらい。大きな枠組みとしての戦略性を考えた方がいいのではないか。
- ・MICEと大規模イベントについて、これまでMICEというとC、コンベンションを意味するところが大きくなりがちだが、スポーツイベントやお祭りイベント等もE、エキシビションに入ると思われるため、MICEというカテゴリーの中で分けていく作業が必要ではないか。そうすることで、MICEには何が含まれるのか、大規模イベントには何が含まれるのかといったことだとかかわかり、全てのイベント等が漏れなくダブリなく把握することができ、全体を捉えることができるのではないか。
- ・消費行動について、現地に来て買ってもらうだけの時代は既に終わっているらしく、現地に来る前からインターネットを通じて誘客し、そこでの短い経験・体験を帰国してからECサイト (electronic commerce site) から購入する時代になっているようである。横浜の魅力を高めて、行きたいと思われる都市を目指すことも必要だが、その前後をつくる取り組みをして、市内経済に働きかけるように仕掛けるべきではないか。
- ・多言語対応強化を進めているが、多言語とバリアフリーが融合した対応がし切れていないのが今の日本の実情だろう。多言語対応及びバリアフリーをそれぞれやればいいのかではなく、合わせ技にしないと東京2020オリンピック・パラリンピックのパラリンピックには太刀打ちできないのではないか。そのためにも両方できるソフトパワーを横浜市役所が育成するのを目指すべきではないか。

- ・横浜は大都市であるからこそ、さまざまな大規模イベントなりMICEを数多くできるため、環境未来都市でもあることを考えると、全体のイベントでカーボンオフセットしたらどれだけになるのか興味深い。また、そういうことはまちとしての魅力づくりにつながっていくのではないか。
- ・市全体のプロモーションの一貫性を持ち、全体をやる中で個々のねらいと効果を誰かがつかんでおくことは大切ではないか。民間や大学等も含め多様なところでプロモーションを行っているが、全体を掌握する部署をつくるべきではないか。
- ・既存の各施設に魅力があり、さまざまな取り組みをしているだろうが、民間も含め関係機関が連携を密に取りながら、点である各施設を面にしていくことが必要ではないか。
- ・姉妹都市を利用したグローバルな視点、市内大学生等の若者を取り込むことでの新たな視点で、横浜が横浜らしさをどう売っていくかを検証すべきではないか。
- ・当たり前のことを当たり前にやると、特に他国の方から反応があったりするため、日本のわびさびのような他国にないものを客船ターミナルでサービスとして提供するとよいのではないか。

第3回委員会（平成28年9月23日開催）

【議題】調査・研究テーマ「選ばれる国際港都横浜の魅力づくりの推進」について

【主な意見】

- ・八景島には幾つかの栈橋があり、以前は観光船が横浜から八景島まで運行していたが、現在は運行を中止している。金沢八景というのは横浜の南側の玄関口で、観光客がたくさん来る可能性があるため、観光船を平潟湾を通して八景までつなげることも検討すべきではないか。
- ・都心臨海部における新たな交通システムの導入について、LRT（次世代型路面電車システム）や連節バスが生まれた場合、観光客と地域に住んでいる方では使用用途・目的が異なると思われる。既存の路線バスを利用している方も考慮し、新たな交通システムと既存のものの両方の長所を生かした再編成をするべきではないか。
- ・横浜市内では都心臨海部及び新横浜駅北部が容積率の緩和により新しくホテルをつくりやすくなる状況になると思われる。それに伴い観光施策の選択肢がいろいろふえてくるのではないか。
- ・連節バスとLRTをどういうミックスにするのか、もしくは全部連節バスにするのかという判断によって大分投資する金額が変わる。その投資採算性について、どういう調査をしてどういう見込みを立ててやるのか。もし市が直営でやるのであれば投資採算性について議会に示していただきたい。
- ・例えば大阪では道頓堀川を使った周遊コースをつくっており、水際の利用についてかなり先進的なようだ。横浜市でも大岡川の水際線の周遊コースの社会実験を行っているので、大阪等の事例を参考にしながら工夫して検討していただきたい。

- ・高度化バスシステムというのは、単純に連節バスを通すという話ではなく、I o T (Internet of Things) を活用し、P T P S (公共車両優先システム) みたいな仕組みが入った、明らかに既存のバスの概念を乗り越えていくものになるであろう。またそれは都心臨海部のみならず既存の路線バスにおいても活用されていくような技術になるであろうから、郊外部でも活用される可能性もあり、その技術の実証も含めて進めていただきたい。
- ・横浜環状南線と横浜湘南道路の結節点である田谷町にできるインターについては、既存の道路もかなり交差しており、かなりの自動車交通の要衝となっている。まちづくりにおいて、横浜市では地元の提案を受ける体制はあるが、この場合においてはそういうレベルの道路整備ではなく、横浜市がある程度の方向性を示した上で調整を進めていくべきではないか。
- ・水上交通について、三浦半島にある各市町村も興味を持つと思われるので、三浦半島へのアクセスの社会実験の検討をしてはどうか。
- ・通勤客や一般の人たちのような、定期的なお客様を入れるという話と、観光客を対象にするという話ではまるきり違うのではないか。観光振興のためなのか通常の交通機関としてなのか、何を目的にしているかがわからない。
- ・新たな交通システムについて、運営主体がどこか決まっていない、採算性について触れていない中で2020年にやろうとしているのはどうなのか。
- ・水陸両用バスについて、より市民や観光客の目に触れるようなコース設定を検討していただきたい。特に進水斜路が1カ所なため、目に触れる機会が多い赤レンガや大さん橋、山下公園等の観光スポットがある中で、そこまでいかにUターンしてしまうのはもったいないのではないか。
- ・バリアフリー、福祉の視点も大切であるが、観光を目的にするのであれば2階建てバス等の観光する方が目につくものの導入も含めて幅広く検討するべきではないか。
- ・港湾局が取り組んでいる水上交通と交通局が取り組んでいる観光バスの発着をうまく合わせる等局横断的な検討も進めていただきたい。
- ・都心臨海部における新たな交通システムについて、これは政策投資であり、高度化バスシステムにかけられる市民の願いは切実なので、その導入の過程で出てくる副産物の展開をちゃんと考えてほしい。
- ・羽田から横浜までのアクセス、大さん橋からのアクセス、外国人が多く泊まっているホテルから目的地までのアクセス等外国から来られる方々にとって最も快適な回遊性を確保するための方策を考えていかなければいけない。
- ・横浜はこういう魅力があるから行ってみようと思われるに資するような交通ネットワークにしていきたい。
- ・本町通りは現在港湾関係の業務用車両がたくさん通っている。高速道路や357号線の整備等によって交通量は随分減ったが、定時性のある何らかの交通システムを導入するには、物流車両が横浜都心の重要な路線を避けて通れるような道路整備が必要になる。

第5回委員会（平成28年11月4日開催）

【議題】明日の日本を支える観光ビジョンについて

【主な意見】

- ・日本が観光大国になっていくに当たり、今住んでいる我々日本国民一人一人が観光大国になっていくことを意識していく必要がある。
- ・観光と文化は一体的なもので、横浜市内18行政区の各区に日本遺産に該当するような文化的な施設等が残っているが、そういったものを発掘すると同時に、横浜市が中心になって神奈川県全体を考えて、文化の拠点を発掘し、日本遺産に登録し、観光と結びつけるようなことが必要ではないか。
- ・観光業は賃金体系があまりよくないという状況があるが、長く誇りを持って働ける産業となっていくと人材不足に陥るのではないか。賃金体系があまりよくない背景には非正規労働の割合が圧倒的に高く、またその背景にはピークの差が大きい、季節変動が大きいことが挙げられる。ほかにも安値競争で業者が戦っている限りは、しわ寄せが労働者にいくため、価格ではなく品質とサービスに応じた対価をもらえるような方向に観光業の方向性を転換すべきではないか。
- ・観光産業は非常に重要かつ唯一の成長産業であると思われるが、宿泊施設の稼働率が高いことから、民泊の緩和とかいろいろなことをやっているが抜本的な見直しをしなければ集客できないのではないか。
- ・明日の日本を支える観光ビジョンの中で2020年までに世界水準のDMO（Destination Management Organization）を100形成するとあり、登録団体は100を超えたかもしれないが、中身として世界水準のDMOはまだ日本にないと思われる。世界水準のDMOにしていくには予算規模や専門人材の確保、自主財源の確保が課題となるのではないか。
- ・横浜はさまざまなエンターテインメントの施設が充実しているのが強みであると思われるが、そこに満足せず新しいタイプのサービスを提供していくことが重要ではないか。

第6回委員会（平成28年12月5日開催）

【議題】調査・研究テーマ「選ばれる国際港都横浜の魅力づくりの推進」について

【主な意見】

- ・LNG（液化天然ガス）燃料供給の主導権を握るために横浜で燃料供給できるようにするとのことだが、各国主要港はどこもLNGの燃料供給基地を新設あるいは拡充するのではないか。東アジアのハブポートとしての復権を目指すがあるが、復権するには絶対的優位に立つような施策が必要ではないのか。
- ・京浜臨海部ライフイノベーション国際戦略総合特区について、いろいろな研究成果が出ていて今後も出てくるということだが、それを市民あるいは日本全国に伝えていくべきではないか。
- ・研究成果の製品化は、横浜市内企業が製造を担う、あるいは製造できる企業を市内に誘致するといいいのではないか。

- ・ 研究開発で地元の企業と産業化、事業化していくことも大事であり、誘致先の土地やその研究開発施設の周りにいろいろな施設を整えられるようなスペースを用意するとかそういった環境整備をする必要があるのではないかな。
- ・ 京浜臨海部ライフイノベーション国際戦略総合特区での取り組みによって、どれほどの雇用を生み出すような産業化を進めていくのかといった目標となるKPI（重要業績評価指標）とかKGI（重要目標達成指標）を入れていくべきではないかな。
- ・ 研究費用を支援したのであれば、それが成功した暁には応分のものをもらい、次の開発研究の費用に回すといったことにつなげなければプロジェクトとして完結しないのではないかな。
- ・ 研究開発を推進し、それによって成果が出たり人材育成したり民間企業等に研究成果を提供することで一定の成果は出ているのではないかな。
- ・ 研究開発から事業化、製品化までを支援するのは大変だろうが、政策として機能させるには明確なKPIは必要だろうし、それがあってこそ個々のプロジェクトが生きてくると思われるので、政策論的に整理することは必要ではないかな。
- ・ 京浜臨海部ライフイノベーション国際戦略総合特区の政策に基づいて行ったことと企業の誘致結果が直接関係するかどうかはわからないと思われる。いくら投資をしてどれだけ変わったのかということよりも横浜市内の全体の動きを総合的に整理し把握することが経済局として大事なのではないかな。

第7回委員会（平成29年2月9日開催）

【議題】 調査・研究テーマ「選ばれる国際港都横浜の魅力づくりの推進」について

【主な意見】 当日の意見概要を記載

第8回委員会（次回委員会）

当日の概要を記載